

ゆたかな水・あふれる自然

温井ダムからのお知らせ

警報設備試験運転

2024年

5/7 火

5/9 木

AM9:00~PM5:00



警報設備の試運転を行います!

温井ダムは梅雨時期を迎える前に放流警報設備の点検を行うため、

5月7日(火)~9日(木) 『時間帯:AM9時~PM5時』

にかけて実際にサイレンを1警報所当たり約3分間鳴らして設備の動作を確認するための試運転を行います。



**放流を要する天候時に
サイレンが鳴り始めたら
他の人にも
呼びかけて
ください。**



55秒 5秒 55秒 5秒 55秒

実際にダムからの放流による河川の水位上昇を周知する場合は、上記のような警報サイレンを鳴らします。警報が聞こえたら他の人にも呼びかけて、すみやかに河川から出てください。また、増水中は河川には入らないでください。

温井ダムリアルタイムデータ

国土交通省では、所屬する「雨量」「川の水量」等をインターネットを通じてリアルタイムで情報提供しています。温井ダムの情報(「ダムの上流地域平均雨量」「流入」「放流量」「貯水位」「貯水量」等)もリアルタイムで提供しています。

QRコードで簡単アクセス!



インターネット URL アドレス

<http://www.cgr.mlit.go.jp/nukui/>

川の防災情報 スマホ版ページ

<https://www.river.go.jp/>

QRコードで簡単アクセス!!



放流警報設備を沿川自治体の 災害・避難情報提供に活用

温井ダムの放流警報設備は、ダムからの放流によって河川の水位が上昇することを河川内にいる人たちに伝えることを目的として設けられていますが、広島市や安芸太田町からの避難勧告等の災害情報提供にも活用していただくことになりました。「太田川洪水注意報・洪水警報による避難勧告」「気象等による人命に関わる重大な災害に対する避難勧告」の要請を広島市や安芸太田町から受けた場合、温井ダム管理所は放流警報設備のスピーカーとサイレンの一部を使ってこれらの情報の伝達を支援します。しかし、実際の洪水時等に迅速かつ的確に避難情報を入手するには、この設備だけでなく、テレビ、ラジオ、避難誘導アプリ、緊急速報メール、SNS等の多様な手段を複合的に活用していただくことが重要です。



国土交通省 中国地方整備局

温井ダム管理所

〒731-3501 広島県山県郡安芸太田町大字加計1956-2 TEL:0826-22-1501 FAX:0826-22-1927

<http://www.cgr.mlit.go.jp/nukui/>

温井ダムの 洪水調節機能に ついて

流入した洪水の一部を貯めながら放流

温井ダムは下流安芸太田町や広島市街地の皆さんの暮らしを守るため、ダム地点における洪水時の最大流量・毎秒2,900m³のうち1,800m³をダムに貯め、1,100m³を下流に放流する計画で建設されています。

しかし、まだ河川の堤防などが完成していないため、現在は下流の河川の状態にあわせて、ダムからの放流量を毎秒約480m³に制限した操作を行うことになっています。(想定を上回る洪水の場合は除きます。)

温井ダム管理所では「温井ダム操作規則」にしたがって、流入量が毎秒400m³を超えた場合に、洪水調節を行います。

平成29年7月の台風第3号及び梅雨前線による大雨において、温井ダムでは、流入量が毎秒約861m³に達し平成14年4月からの管理開始以来、最大の流入量となりました。これに対して温井ダムでは、防災操作を行い最大で毎秒約494m³の水をダムに貯留する洪水調節を行いました。

こうした洪水調節機能を簡略に表したのが右図です。洪水時に温井ダムが河川の水位上昇を少なくする働きをしています。

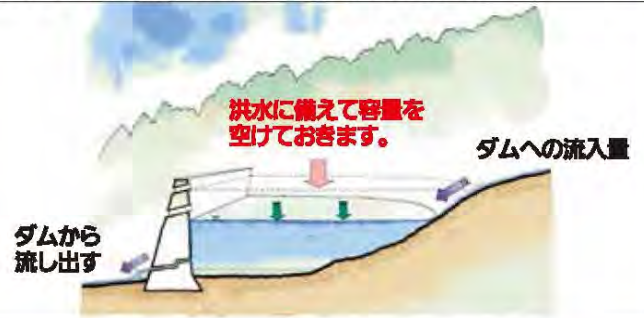
温井ダムでは6月11日から10月25日までを洪水期(洪水が発生する危険性の高い期間)として警戒しています。そのために必要な容量を空けておき、この容量を利用して洪水調節を行います。



ダムによる洪水調節の仕組み

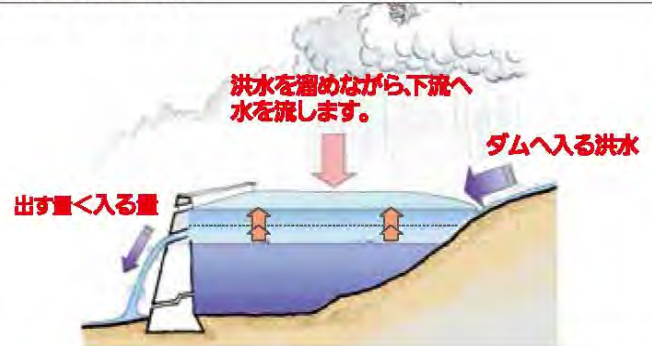
①洪水に備える

ダムによっては洪水に備えて、台風や大雨による洪水の起きやすい季節に、あらかじめ貯水位を下げ洪水を溜めるための容量を確保するダムや、降雨が予想される場合に前もって放流を行い、容量を空けておくダムがあります。



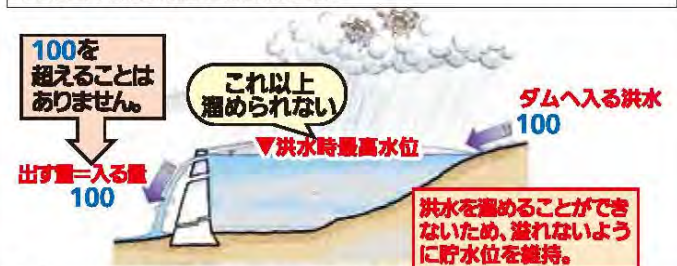
②洪水を貯め込む

大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部を貯水池に溜め、ダム下流への放流量を調節します。



③想定を上回る洪水への対応

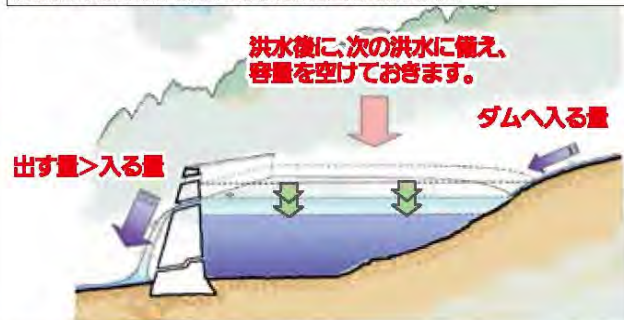
想定を上回る異常な洪水の場合、ダムに溜められる容量が一杯になることがあります。その時ダムではこれ以上洪水を溜められないので、ダムに流入する洪水とダムから下流に流す水の量を等しくします。この場合でも、ダムに入ってくる洪水より多い水量を下流に流すことはありません。



自然河川状態(ダムに入る洪水=ダムから流す量)でのダムの操作を維持。

④次の洪水に備える

大雨が止み、洪水が過ぎ去ると、ダムへ流れ込む水量も小さくなります。貯水池は、洪水を溜めた分だけ水が増えているので、次の洪水に備えて、下流の河川の状態を見ながら、溜めた水を通して貯水池の容量を確保します。



◆わたしたちの地域における流域治水の取り組み紹介Channel◆

官公庁・企業・住民で水災害から地域を守る!! ホットなワード『流域治水』をご存じですか?

国土交通省太田川河川事務所公式Channel <https://www.youtube.com/channel/UC2I9ic5vLri6qErW04XSo9A>

